

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 14 日現在

機関番号：13902

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23501105

研究課題名(和文) 家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の連携を目指した授業プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of the class program aiming at the cooperation of a home economics teacher, nutrition instructor, the school nurse

研究代表者

青木 香保里 (AOKI, KAHORI)

愛知教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：00258683

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の連携を目指した授業プログラムの開発にあたり、「水」「甘み」「排泄」「アレルギー」について教育内容の検討を行った。教育内容の検討に際し、家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の創設をめぐる歴史的背景と経緯から課題を把握し、授業プログラムの開発に向けた視点とした。家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の連携は、教科や教育活動の総合性や実践性の発揮につながることを示唆された。

研究成果の概要(英文)：We examined education contents about a "water" "sweetness" "excretion" "allergy" on developing the class program aiming at the cooperation of a home economics teacher, nutrition instructor, the school nurse. On the occasion of the examination of education contents, we grasped a problem from historic background and process over the foundation of a home economics teacher, nutrition instructor, the school nurse and did it with a viewpoint for the development of the class program. It was suggested that the cooperation of a home economics teacher, nutrition instructor, the school nurse led to the total compatibility of a subject and the instructional activity and practice-related display.

研究分野：科学教育・教育工学

科研費の分科・細目：教育工学

キーワード：家庭科教諭 栄養教諭 養護教諭 連携 授業プログラム

1. 研究開始当初の背景

(1) 教員養成における科目にみる共通性・専門性と連携の必要性

家庭科の総合性・実践性は、家庭生活を中心とした生活に教育内容を求める教科としての家庭科それ自身の性格に由来するところが大きい。しかし、家庭科の総合性・実践性は、他の教科や教育活動と連携し、緊密なネットワークを形成することが、教科としての家庭科の固有性を発揮することにつながると考える(青木・荒井:2010)。

一方、子どもの体や生活の現実に根ざすという共通性をもつ家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の連携とネットワークの形成は、学校教育において子どもの発達を支える専門職の資質の形成に寄与するものを考える。また、専門性の発揮には、教諭自身が専門性を探究する必要がある一方で、教諭相互の専門性を発揮し連携することにより、教諭自身の専門性が自覚され、専門性の深化が期待できる。

しかし、教員養成家庭の現状を概観すると、管見のかぎり、共通性と専門性を融合・統合する科目等は、教科教育学において意識されているものの(青木・荒井:2010)、近接・隣接する専門科学間について十分といえない状況にある。

そこで、保健・医療・福祉・教育の連携を教員養成課程の段階から具体的に検討するに至った。

(2) 教員養成における教養教育と専門教育の接続・連携の必要性

大学教育の教養教育において、「健康で健全な豊かな生活(QOLの高い生活)」をつくりあげることが目標とする動向は、教養教育にかぎらず、各専門教育との接続・連携が図られてこそ有意と思われる。とりわけ、教員養成課程においては、教師の専門的力量的充実・向上のみならず、学校教育を介して各専門性が児童・生徒に還元されるといえ、教員養成課程においてこそ、「健康で健全な豊かな生活(QOLの高い生活)」をつくりだすことを目標におく教養教育と専門教育の接続・連携は課題といえ、カリキュラムおよび授業開発は急務であると考えた。

「健康で健全な豊かな生活(QOLの高い生活)」に関する教育内容・教育活動等を担う教諭として、学校教育においては、家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭が配置されている。各教諭の連携とネットワーク化により、各教諭の専門性に根ざした教育活動が期待でき、児童・生徒の生活設計の基礎になると考える。

2. 研究の目的

家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の接続・連携の現状を把握し、課題を明らかにする。そのうえで、教員養成課程段階で専門的基礎となる教育内容について検討する。

家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の接続・連携を目指した授業プログラムの開発と実

験授業を実施し、分析・評価を基に修正・改善を行い、具体的提言を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 方法

家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の連携に関する現状と課題を把握し、実践化を視野に入れた授業プログラムの開発と、授業プログラムの共有化と改善に向けたシステムの検討を行う。

授業プログラムを具体化するうえで基礎となる教育内容研究を「甘み」「水」「排泄」「食物アレルギー」について行い、授業プログラムの作成、実験授業の実施・分析・評価を行い、学会等に報告・論文文化し、公表する。また、現職教員等の研修の場において授業プログラムの実施を試み、改善・修正に向けた資料として活用する。

(2) 計画

専攻研究の検討、海外の動向に関する調査各養成課程における家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の接続・連携に関する現状把握接続・連携を目指した教育内容の開発：「甘み」「水」「排泄」「食物アレルギー」実験授業の実施と分析・評価研究成果の公開

4. 研究成果

(1) 家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の接続・連携の現状

専門性の発揮には、教諭自身が専門性を探究する必要がある一方で、教諭相互の専門性を理解し連携することにより、教諭自身の専門性が自覚され、専門性の深化が期待できる。また、多様化・流動化・国際化等が進展する現代社会において、子どもの体や生活は社会の変化を受け、現代的課題に直面している。子どもが直面する現代的課題に対して、学校教育で指導・支援に携わる教諭は、専門の立場から総合的・実践的に課題を把握し、解決にあたる必要がある。学校教育に係る課程においては、保健・医療・福祉との連携を視野に入れた専門性の養成を構想する必要がある、カリキュラムや教育プログラムとしての具体化は急務といえる。

しかしながら、現状は個別の専門性の探究に係るカリキュラムやプログラムの展開の場合が多数であり、連携を意識したカリキュラムや教育プログラムの開発が進展していない状況にある。

家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の設置をめぐる歴史的背景と現状の課題をふまえた教育内容の検討と授業プログラムの開発が急務であることが示唆された。

(2) 「養護」の概念をめぐる検討

「家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の連携の可能性と課題」を検討するうえで、家庭科

教諭・栄養教諭・養護教諭の設置をめぐる歴史的背景をふまえる必要性が示唆されたことから、各教諭の専門性の接点となる「養護」の概念について明治期にまで遡り、検討した。

「養護」の語は、「教授」「訓練」と並ぶ教育の方法として提唱された始まりをもち、「日常生活において、栄養・空気・光線・衣服・保湿・清潔・運動・休養等の衛生的原則を遵守させ、不良な生活習慣を矯正して、健康を保持・増進させる作用」という意味に解されていた。「養護」の語をめぐる、家庭科教諭は教科教育の側面、栄養教諭は栄養の摂取に関わる側面、養護教諭は学校生活環境・安全・衛生等の側面に重点をおき、教育活動として連携をはかることで相乗し、相互作用を期待できることが示唆された。

このような歴史的背景をおさえたうえで、教育をめぐる課題に照らしあわせた教育内容の検討と授業プログラムの具体化が家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の連携の可能性を広げるとともに、教師の専門性の解明につながることを期待できる。

(3) 授業プログラムの開発

授業プログラムの具体化および教育内容研究として、「水」「甘み」「排泄」「食物アレルギー」に関する検討を行った。また、家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の連携を目指す教育内容研究および教育方法の開発として、映像教材の制作を行った。

例えば、「食物アレルギー」の教育内容に関する検討として、1)教育課程において教科として位置づいている「家庭科」と「体育科」「保健体育科」の「保健」領域の学習指導要領、および教科書記述等の現状を把握し、2)学校生活におけるさまざまな教育活動を概観し、家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の連携が可能な場面を抽出したうえで、家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭が連携する学級指導および教科(家庭科)指導のうち「調理実習」「給食」に注目した。実際の指導場面を想定し、教員養成大学における教科教育法(「家庭科教育」)の授業実践に向けた「アレルギー(食物アレルギー)」に関する検討を行い、3)教科教育法(「家庭科教育」)の授業実践後に寄せられたコメントをもとに成果と課題を整理した。なお、「水」「甘み」「排泄」の教育内容に関する検討において、1)~3)の同様の過程をふまえた。

(4) 今後の課題

家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の接続・連携の現状、および「養護」の概念をめぐる検討をふまえた授業プログラムの開発を通して、授業における子どもの認識や技能の形成には教師の指導のみならず、学校や保護者、自治体等、さまざまな基盤の整備と連携が欠かせないことが改めて確認された。今後、授業・学校・保護者・自治体の連携に関する教育内容の改善に取り組むことが課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

青木香保里・荒井眞一・吾妻知美・高野良子「食物アレルギーに関する教育内容の再構成と指導」愛知教育大学研究報告第 63 輯、2014、51-59 頁、査読有

小川真孝・青木香保里「調理実習の事前学習用映像教材の自主製作」愛知教育大学家政教育講座研究紀要第 43 号、2014、1-16 頁、査読無

栗田沙織・柴田央麻・青木香保里「学校における食物アレルギー教育の在り方 - 全ての子どもと共に学ぶことのできる調理実習を目指して - 」愛知教育大学家政教育講座研究紀要第 43 号、2014、17-32 頁、査読無

青木香保里・鷲住美里・荒井眞一・吾妻知美・高野良子「“排泄”に関する教育内容の再構成と指導」愛知教育大学研究報告第 62 輯、2013、93-101 頁、査読有

藤井未紗子・青木香保里「障害児育児における父親の役割 - 家庭科における障害者」愛知教育大学家政教育講座研究紀要第 42 号、2013、99-114 頁、査読無

青木香保里・浅井祐子・荒井眞一・吾妻知美・高野良子「“甘み”に関する教育内容の再構成と指導」愛知教育大学研究報告第 61 輯、2012、75-84 頁、査読有

青木香保里・桂里名・永田龍馬・中山裕美・山田真美「食を中心とした水の大切さを伝える家庭科教育の提案」愛知教育大学家政教育講座研究紀要第 41 巻、2012、57-72 頁、査読無

青木香保里・荒井眞一「教育研究集会参加による学生の実践的学びと認識形成 - 教育実践の交流と連携を軸とした教職における専門性の探究」愛知教育大学家政教育講座研究紀要第 41 巻、2012、29-39 頁、査読有

[学会発表](計 10 件)

青木香保里・荒井眞一・吾妻知美「映像教材を位置づけた家庭科における調理実習の事前学習に関する検討」北海道教育学会、2014 年 3 月 22 日、恵庭

青木香保里・荒井眞一「教科書に見る食物アレルギーの検討」日本家庭科教育学会例会、2013 年 12 月 7 日、東京

青木香保里・荒井眞一・吾妻知美・高野良子「家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の連携を目指した教員養成大学における授業実践」日本教育大学協会研究集会、2013 年 10 月 5 日、札幌

青木香保里・荒井眞一「家庭科教諭・栄養教諭・養護教諭の連携を目指した教育内容の検討」日本教師教育学会、2013 年 9 月 15 日、京都

青木香保里・荒井眞一「家庭科教諭・養護教諭・栄養教諭の連携に関する検討」日本家庭科教育学会例会、2012年12月1日、東京
青木香保里「家庭科教諭・養護教諭・栄養教諭の連携の可能性と課題」日本教師教育学会、2012年9月9日、東京
AOKI Kahori 他12名(日本家庭科教育学会 課題研究ワーキンググループ2) ; Revitalization of Investigative Activities by Independent Projects : Case of Japan Association of Home Economics Education's " The Research Projects on Contemporary Issues " IFHE2012 World Congress、2012.7.19、Melbourne Australia
青木香保里・荒井眞一「家庭科の実験・実習と水に関する教育内容」日本家庭科教育学会、2012年7月1日、東京
青木香保里・荒井眞一・吾妻知美「節水を意識した食の学習の検討」北海道教育学会、2012年3月19日、札幌
AOKI Kahori; Home Economics Education in JAPAN, NEW ZEALAND /JAPAN Seminar , 2011.11.11、Christchurch

〔図書〕(計 3 件)

望月一枝 他編 青木香保里 他40名『生きる力をつける学習 - 未来をひらく家庭科』教育実務センター、2013、総208頁
荒井紀子・大竹美登利・青木香保里・上野顕子・柳昌子 Home Economics Education in JAPAN 2012、日本家庭科教育学会、2012、総108頁
大竹美登利・日景弥生編 青木香保里 他10名『子どもと地域をつなぐ学び - 家庭科の可能性』東京学芸大学出版会、2011、総157頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 : なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青木 香保里 (AOKI, Kahori)
愛知教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：00258683

(2) 研究分担者

荒井 眞一 (ARAI, Shin-ichi)
札幌大谷大学・社会学部・准教授
研究者番号：80552877

吾妻 知美 (AZUMA, Tomomi)
甲南女子大学・看護リハビリテーション学部・教授
研究者番号：90295387

高野 良子 (TAKANO, Yoshiko)
名寄市立大学・保健福祉学部・教授
研究者番号：90329649